

# 新城市議会傍聴記

④

地方政治  
クリエイト  
**伊藤 秀昭**

新城市議会12月定例会は10日から一般質問を行い14人が登壇した。  
産廃問題、新庁舎問題、そして今度は市長リコールである。新城で何が起きているのか注目したい。

◆コノハズク  
山崎祐一氏は愛知県の鳥、新城市の鳥になっているコノハズクを取り上げ、「ブッポウソウ」と鳴くことを鳳来寺山自然科学博物館が実証してから今年が80年になることから、最近では鳴き声が聞こえなくなったとして、その

よる重機使用について議論したが、公共工事減少により業界が重機をリースする傾向や、オペレーターの高齢化は大きな問題である。  
◆子どもの貧困  
小野田直美氏は子どもの6人に1人が相対的貧困にあり、年々増加していると

## 新城ヶ原、風強し

の人生を豊かに変えて行くことが大事なのです」と主張したが、子どもの貧困は、個人の問題でなく、社会にも大きな損失であり、日本の未来を左右する重要な課題である。  
◆市長リコール  
白井倫啓氏は市民団体が市長リコール

「2年前の市長選でルールに従って、市民から4年間の市政運営を負託された。それでも市長を変えたいという大きな責任をどう果たしていくのか」と市長。  
また、新城こども園は、念願の3歳未満

再質問する加藤氏に、市長自ら審議経過を説明し、実務協議の確認事項を基に加藤氏の誤解を解くために、繰り返し話した。理解は得られたのだろうか。  
◆新東名開通  
丸山隆弘氏は来年2月に新東名が豊田東JCTまで開通する見通しになったことから地域活力の増大への展望と課題について質問した。

してどのような対策を講じていくのかと質問した。  
小野田氏は「子供たちにとって、新城市に生まれ育つことの幸せとは何か」について議論し、「貧困で育った子どもが、貧困の連鎖に陥るのでなく、社会の力で子ども

「この10年、何も変わらない新城市に市民の不満がうっ積し、市民が冷静に市政を見直し始め、市長を変えようと立ち上がった。やむにやまれぬ市民の思い

打桐厚史氏は災害が大きいければ大きいほど、「自助・共助」がしっかりと行えることが大事であり、災害時の備えや防災時の対処法について  
総務部長は旧計画から約2200平方メートルの縮減を計画した。市民説明会での意見は実施設計に生かしていくとした。  
未来につながるゲートがいよいよオープンする。古い上着を捨てて新たな時代を迎えよう。